

田村市立船引南中学校 実践研究テーマ「主体的に行動し、対話と協働を通して 社会と向き合いながら自己実現を図る生徒の育成」

1年生の取組① 学級活動(1)

- 議題 「文化祭の学年発表を考えよう」
- 本時のねらい これまでの体験等を通し、文化祭の学年発表の内容を決めることができる。
- 本時の概要 テーマ班ごとに分かれ、アイデアを出し合う。模造紙を使って自由に記述し、リーダーを中心に内容を決定する。

○子どもの姿

話し合う環境づくりのため、机を片付け、床に広げた模造紙に議題に対する考えを自由に記述し、積極的な交流を図った。自治的な活動の積み重ねが、学級や学校のためにできることをしたいと思う姿につながっていった。



1年生の取組② 学級活動(1)

- 議題 「全校生と仲良くなろう大作戦」
- 本時のねらい 全校生徒が、全校集会が楽しみになるような企画内容を決めることができる。
 - ・ 合意形成の手順や活動の方法を身につける。
 - ・ 学校の生活をよりよくするための課題を見だし、多様な意見を生かして合意形成を図ろうとする。
- 本時の概要 学級役員を中心に、全校集会の1年生企画について話し合う。

○子どもの姿

提案理由を共有するために、事前に学級役員がポスターを作成した。これにより、自信をもって話し合いを進めることができた。各グループを回りアドバイスする姿から、学級役員の大きな成長を感じた。



○実践活動の実際

1年生全員で役割を分担し、ジャスチャーゲーム、謎解き等の企画運営を行った。



○子どもの感想

- ・あまり話をしたこともない人と仲良くできて楽しかった。
- ・話し合いでは学級役員がよくまとめてくれていた。それを理解して、受け入れてくれたクラス全員が頑張っていた。クラス全員に感謝している。
- ・自分の意見をきちんと言えた。役割もきちんとできた。
- ・学級委員長に頼りすぎてしまった。
- ・時間通りにいかないことや、急なトラブルにすぐ対処できなかった。
- ・もう少し準備をしすぎなくらいの方がいいと思った。

○教師が見取った成長した子どもの姿とこれから

今まで2・3年生の後ろをついていくことが多かった1年生だったが、今回、自分たちで2・3年生を楽しませたいと、一人一人が懸命に活動する様子が見られた。教師や2・3年生に頼るのではなく、自分たちで企画を成功させようと協力しながら運営していた。教師は子どもに「任せる」ことの効果を実感できた。

この活動を通して、学校全体の課題を考えるきっかけになった。その課題を解決するという目標に向かって、1学年生徒全員が最初から企画や役割分担等を考える中で、良好な人間関係が形成されていった。また、話し合いにおける意見の合意形成は課題であり、単純な多数決ではなく、少数意見をいかに取り入れよりよいものを作っていくか、教師自身も考えていかななくてはならない。

田村市立船引南中学校 実践研究テーマ「主体的に行動し、対話と協働を通して 社会と向き合いながら自己実現を図る生徒の育成」

2年生の取組① 学級活動(1)

- 議題 「全校集会を成功させよう」
- 本時のねらい 一人一人が全校集会を成功させようという意識をもち、改善点について話し合う。
- 本時の概要 学級役員を中心に、全校集会で行う2年生企画について話し合いを行う。各係の準備やリハーサルを行い、さらに改善点を話し合う。

○子どもの姿
係ごとに準備を行い、他の係とも連携を図った。リハーサルを行い、改善点を話し合った。



○実践活動の実際
他学年との交流を図るクイズ大会を行った。これまで、全校生を動かす経験はなく、課題も残ったが、「もっとこうしたい」「こんなことをしてみたい」など、次の活動への原動力となった。



2年生の取組② 学級活動(1)

- 議題 「新年のスタートにふさわしい企画にしよう大作戦」
- 本時のねらい 全校生が新年のスタートを笑顔で明るくスタートできるような全校集会の企画を考え、仲間と協力して、積極的に意見を出し合いながら活動することができる。
- 本時の概要 前回の反省から、生徒主体で議題に沿った企画や役割分担を決める。多様な意見を生かし、合意形成を図る。

○子どもの姿
企画内容や役割分担について話し合った。友達の考えを大切にして、折衷案を提案する姿があった。「いいね」と賛同する言葉が自然と出ており、本学級のよさを感じた時間となった。



○実践活動の実際
音楽で明るい雰囲気を作ろうと、全校生縦割り班によるイントロクイズを行った。司会進行は、「前回の反省を生かしたい」と1回目と同じ生徒が立候補し務めた。景品係の生徒は、1回目のときに集計に時間がかかったことを課題としてとらえ改善策を考え、2回目は円滑に結果発表することができた。よりよくしたいという生徒一人一人の思いが主体的な行動に繋がっていた。



○研究のまとめ

- ・ 生徒主体の話し合い活動を重ねていく中で、受動的だった生徒が自分たちで学校生活をよりよくしていこうとアイデアを出し合い、自分たちで活動しようとする意欲が高まってきた。
- ・ 「計画→話し合い→実践→振り返り」を行い、自分たちでさらによりよいものを作り上げようという意欲が向上した。
- ・ 各教科の授業でも、話し合い活動に積極的に参加し、教師の問いかけに反応したりしようとする姿勢が高まってきた。
- ・ 教師と学級役員で事前に話し合っ、準備を行い、話し合いの目的を学級全体で理解することが必要であると考えた。
- ・ 生徒自身の課題や学級の課題などについて、自分たちの力で解決していく働きかけについて工夫していきたい。